

平成 2 9 年度教育活動に対する自己評価及び学校関係者評価

1. 幼稚園の教育目標心豊かでたくましい子
2. 重点目標行動とその意味が結びつく指導
3. 学校関係者評価結果および課題

幼稚園経営A はいB だいたいあてはまるC あまりあてはまらないD いいえ

	内 容	職員	評価員
1	園の教育理念や教育方針を理解している	A	A
2	活動に具体的なねらいを設定し、子どもたちが達成感を感じながら取り組めるよう指導している	B	A
3	相手の思いに気づいたり、周囲の人に感謝できる子が育つよう関わりを心がけている “トイレのスリッパを揃える”“廊下を走らない”姿を、思いやりの気持ちと関連づけながら具体的に指導している	A	A
4	子どもたちの“不思議”への気づきや、発見へのきっかけづくりができるよう環境を工夫し、意図的なはたらきかけを行うとともに“ちどりっこ農園”“ふれあい花の道”“ビオトープ”“広場”などの自然体験を通した活動を積極的に取り入れている	B	B
5	元気よくあいさつできる子が増えるよう積極的にはたらきかけている	A	A
6	食べ物に興味をもち、楽しく食事ができるような雰囲気づくりを心がけている	B	A
反省	・理念、方針を理解し子どもとの関わりが持てるよう努力している。 ・3の項目については、常に目を行きとどかせたり声をかけたりしながら、子どもにわかりやすい方法で伝える努力をしている。 ・トイレのスリッパについては年度末ということもあってだいぶ揃えることができる姿が定着している。廊下を走る子はなかなか減らず、毎年同じ反省を繰り返している。今後は空間の工夫など何かしらの手立てが必要と考える。 ・自然体験を通した活動については活用が不十分だったと感じている職員が多い。“ちどりっこ農園”“ふれあい花の道”“広場”は学年やクラス単位での活動に組まれることが多い。“ビオトープ”は自由あそびの時間に利用する子が多く、行きたいと思ったタイミングに行けることによって、子どもたちの興味が十分深まると考えている。 ・自然との関わりについては、朝の自由時間を有効に活用したいと考えるが、バス担当2名・各クラスでの受け入れ(身支度の世話等)・園庭であそぶ子への配慮などがあり職員の配置がうまくいけばもっと有効に環境が生かせると感じている。 ・モンテッソーリ教育が入り、新しい取り組みということで時間の使い方等がまだ定着ていない。今までの経営方針もベースにあるため時間の使い方が課題となる。 ・ちどりっこ農園を食育にまでつなげたいと願う思いもある。		
評価	・送迎児、子どもたちの姿を見ているが、いきいきとしている ・園の外でもあいさつができる子が多い ・ちどりっこ農園の取り組みは大変よく、食育につながっている ・先生方の姿勢はとてもよい		
課題	・職員の多忙化につながっているのではないかと核となるものを絞ったらどうか ・お母さん先生を募り、ミニ遠足以外の活動に参加してもらうことで多忙な時間を解消したらどうか		

保育の計画性

	内 容	職員	評価員
1	子どもたちの姿を教育目標に近づけるために、願いや意図を明確にして環境構成をしている	B	B
2	保育の評価・反省を行い、次の保育につなげている	A	A
反省	・活動において“教える姿勢”が優先してしまい、子どもを理解し寄り添うことが不十分だった。主体性を育てるためには子どもが何に興味を持っているのかを理解したり、子どもに“考える時間”をつくったりしていく工夫が必要になる。 ・やらなければならないことに追われ、満足いく準備ができなかった。環境を整えたり、職員間で話し合ったりする時間の確保が難しい。 ・農園の種まき時期がおくれ、収穫時期が夏休みに入ってしまった。毎年のことなので計画的に行いたい。 ・活動と行事のつながりを意識し、場合によっては行事内容・行事そのものの見直しも必要。		
評価	・努力を継続してほしい		
課題	・時間の確保。有効活用		

保育の在り方・幼児への対応

	内 容	職員	評価員
1	子どもたちが健康で安全に過ごせるよう、十分な配慮をしている	A	A
2	子どもの姿をよみ取りながら、発達に応じた適切な指導を行っている	A	A
3	教師同士が協力しあったり、意見を交換しあったりしながら共通理解をもって対応している	B	B
反省	・安全面では、全体への配慮とともに年齢差や発達段階を考慮している。子ども自身が、できる範囲で判断して行動できる力がつくよう意識し、指導を継続したい ・安全面とともに、衛生面にもより配慮したい ・教師同士の共通理解については、時間の確保が難しく、子どもの様子を伝えあったり他の教師の考え方を聞いたりすることが不十分 教師同士のコミュニケーションがとれる時間を確保したいが、現状では難しい		
評価	・教師同士の共通理解は大切。意見交換の時間や場を設ける工夫が必要		
課題	・時間の確保。有効活用		

教師としての資質や能力・良識・適正

	内 容	職員	評価員
1	自分自身の行動が、子どもたちに大きな影響を与えていることを意識し、言動・行動に常に気をつかうよう心がけている	A	A
2	組織の一員であることを自覚し、守秘義務の遵守や、職員同士が信頼しあえる関係を築くための配慮をしている	B	A
3	保育のためのアイデアやヒントを得るため、アンテナを高くし環境と関わったり、情報を得たりする努力をしている	B	B

反省	<ul style="list-style-type: none"> ・言動や行動には常に配慮している ・説明不足で、行き違いが生じないよう心がけている ・２の項目はAになるよう、配慮していきたい
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・２の項目はAでないと困るのではないか ・努力を要する
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の意識の統一

保護者への対応

	内 容	職員	評価員
1	園の方針を理解し、保護者に理解してもらうための努力・工夫をしている	B	A
2	情報を発信するときは、個人・クラス・園全体というさまざまなケースを慎重に見極め、場合によっては園長・主任に相談したうえで適切に対応している	A	A
3	“親しみ”と“馴れ合い”を混同することなく、教育者らしい態度で保護者との関係を築くことを心がけている	A	A
反省	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの様子を伝えることで、信頼関係を築くようにしている。 ・理解を深めてもらうため、園の情報を発信したり、教育内容について伝える努力をしている。 ・保護者アンケートの集計結果を受け、改善点について話し合っていきたい。 		
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートの結果から保護者の満足度がうかがえる 		

地域の自然や社会とのかかわり

	内 容	職員	評価員
1	幼稚園での生活が、小学校生活の基盤になることを意識し、小学校の教育内容について意識しようとしている	A	A
2	子どもたちの生活は、地域社会や身近な自然、家庭、園生活がひとつづきのものとして、連続性をもちながら成り立っていることを意識し、直接的・具体的体験ができるよう活動内容を工夫している	B	B
反省	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園は小学校につながる前の段階と考えると、小学校の教育について知る機会を設ける必要性を感じる。 ・平成３０年度より教育要領が改訂される。吉田町としての教育カリキュラム作成にも参加し指定園としても取り組んできたので、その成果が子どもの姿に反映されるようにしていきたい。 		
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・川尻会館での作品展や文化祭への参加などを通じて、地域とのつながりが生まれていると思う ・“連続性”となるとむずかしいが、関連性はもてているのではないか 		

研修と研究

	内 容	職員	評価員
1	研修会や研究会には自己課題を持って参加している	B	A
2	常に質の高い教育の実践を求め、与えられた研修に義務的に参加するだけでなく、自己課題を持ての研修・研究を重ねる努力をしている	B	B
3	モンテッソーリ教育への理解を深め、援助者としての接し方が身に着くよう努力した	B	A
4	幼少の円滑な接続を意識し、幼児教育カリキュラムに基づいた実践が出来るよう、前向きな姿勢で研修に取り組んだ	B	A

反省	・園内研修、研究保育、吉田町教育カリキュラム作成への参加、モンテッソーリ研究会など、今年度はさまざまな研修に前向きに取り組んできた。今後はより深く学べるよう努力したい
評価	・研究保育の様子をみて、とてもいいと感じている。それぞれが、得意分野を活動に生かしている ・研修については『常に質の高い教育の実践を求める』ことは、むずかしいのではないか。得意分野や担当する分野を高めてほしい ・モンテッソーリ教育については今年度始まったばかりなので、深めてほしい
課題	・得意分野をのばす